

2020年初のご挨拶が、2月になって仕舞いました。昨年暮れごろから、ホームページ用のパソコンが、「ずーっと働きづめで、もう疲れたよ。」と、ストライキを起こし、宥めても透かしても言うことを聞かなくなりました。それで、年が改まるのと同時に、新たな心と新たなPCをもって再出発することにしました。

一昨日（2月3日）は福者ユスト高山右近の、そして今日2月5日は日本二十六聖殉教者の祝日です。今私たちが、何の妨げもなく迫害も受けずに、三位一体への信仰を宣言し、キリスト者として信仰生活を生きられるのは、ひとえにキリシタン時代の数えきれないほどの殉教者、信仰の証人のおかげです。

日本での最初の殉教者、二十六聖人は、随分と違った背景の人々の寄せ集めであった感があります。年齢的に見れば十二歳の少年から六十代の老人までに及び、国籍から見れば日本、ポルトガル、イスパニア、メキシコの4か国、社会的な身分から見れば司祭、修道士、神学生、商人、そして武士と、バラバラな生活をしてきた人々でした。

唯一の共通な基盤は、主キリストへの燃える愛、父のみ旨に対する全き従順

でした。私たち人間を救うために十字架上で血を流し、命を捧げてくださった
キリストへの恩返しのために、自らの血を喜んで流した私たちの信仰の先達の
模範に従い、祈りに支えられながら、私たちもまた信教の自由を保障された世
にあって、一層熱心に福音宣教に励み、信仰を証ししていきましょう。

塩谷恵策 SJ